

## 公益社団法人日本学生陸上競技連合 2021年度（令和3年度）事業報告

### 【概要】

2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症は、2021年度に入り、ワクチン接種の普及や諸々の対策により収束に向かうことを期待したが、変異株の出現など、引き続き感染症対策に迫られた1年となり、陸上競技界にも大きな影響を及ぼした。日本学生陸上競技連合の公益目的事業の柱である、競技会の開催については、1つの併催競技会を除き、ほぼ計画通りに実施し、大きな成果となった。国際大会への参加が困難な状況下、オリンピックが東京で57年ぶりに開催され、学生陸上競技界においては選手はもちろん、ボランティアとしての参加など、特筆すべき大会となった。残念なことに無観客となってしまったが、多くの学連関係者も参加し、競技会運営を支え、成功に導いたことは、今後のレガシーにも通ずるイベントとなった。

### {公1-競技会}

日本学連が主催する競技会について、長引くコロナ禍ではあったが、昨年からの感染症対策のノウハウも生かされ、昨年中止となった6月開催の日本学生陸上競技個人選手権大会、7月開催の実業団・学生対抗陸上競技大会、10月開催の出雲駅伝は2年ぶりの開催を果たした。天皇賜盃第90回日本インカレは、節目の大会として、埼玉県、熊谷市、埼玉陸上競技協会のご指導を得て、昨年に引き続き無観客ではあったものの無事開催、終了することができた。ただ、コロナ禍を配慮し、参加標準記録の緩和や記録の有効期間の延長などを行ったため、エントリーする選手が大幅増となり、運営に影響が生じてしまったことは次回への反省材料となった。

全国のロードレースシーズン皮切りとなる出雲駅伝は、昨年の中止から本年は是非開催したいという地元の熱意の元、綿密な感染症対策を講じて開催にこぎつけた。地方開催においては大変難しい課題が多かったと想像するが、無事終了することができた。歓迎レセプション、さよならパーティーなど、人気のサブイベントは取りやめ、また、長年続いているIVYリーグの招聘も断念した。10月31日開催の全日本大学女子駅伝、11月7日開催の全日本大学駅伝、12月30日開催の富士山女子駅伝の3つの駅伝は、沿道対策をはじめ、大会に関わる全ての方に対し、昨年と同様の感染症対策を講じ、無事終了することができた。

2022年は、延期となったFISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)の開催の年である。感染力が強いオミクロン株が猛威を振るう中、ロード種目の日本代表選手選考競技会の準備をおこなった。皮切りとなる3月13日開催の立川シティーハーフマラソン(日本学生ハーフマラソン選手権大会)は、今回初めて参加標準記録の設定を導入し、エントリー数の制限を実施した。選考は予定通り男子3名の日本代表選手を内定した。続く3月20日に予定していた松江レディースハーフマラソン(日本学生女子ハーフマラソン選手権大会)は、コロナ感染症の影響で中止となったため、2022日本学生個人選手権10000mにおいて選考することとした。同じく3月20日開催の全日本能美競歩(日本学生20km競歩選手権大会)は予定通り開催し、男子3名の日本代表選手を内定した。

### {公2-育成}

育成事業においても新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年に引き続き事業の中止や変更が生じた。毎年、日本陸連を通じて招聘される台北国際陸上競技大会、香港インターシティ、長距離選手の強化事業として派遣するオランダ/ナイメーヘン15kmロードレースへの派遣は中止とした。指導者会議については、本年度67回を数え、昨年に引き続きして、Web会議システムにより実施した。テーマは、昨今、スポーツ庁が率先して進めているガバナンスコードに関連して、コンプライアンス研修として位置づけ、テーマは「指導者や競技者等のコンプライアンスについて考える」とした。

### {公3-調査研究}

調査研究事業においては、本年もtoto助成金交付の元、計画通り年4回の陸上競技研究の発行。共催の陸上競技学会については、オンラインの開催となった。

### {法人管理部門}

令和3年度は、感染症対策の観点で、5月開催の第48回理事会、6月開催の定時社員総会については、ZOOMによるWeb会議を導入した。恒例の日本インカレ前に開催する理事会は熊谷市で開催、12月の第50回理事会は日本新記録章、日本学生新記録章の表彰も兼ね、都内の会議室にて開催した。本年度最終の第51回理事会は、コロナ感染症第6波の影響も懸念し、3月5日にWeb会議にて開催した。

日本学連の活動の中でも重要な立場にある学生役員のための第47回幹部役員研修会は、昨年に引き続き、コロナ感染症の影響でリモート開催となった。リアルな座学、討議、役員同士のふれあいや懇親の場を持ってなかったことは残念な結果となった。来年は従来のリアルな研修会が実現できることを期待したい。

### {普通会员の登録数}

令和3年度、普通会员登録者数は18,568名となった。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対前年2000名以上の大幅な減少があったが、令和3年度は約350名ほど増となり若干であるが回復を見た。まだまだコロナ禍の影響があると考えられるが、新型コロナウイルス感染症が収束し、再び20000名を超える登録になることを目指したい。

## (1) 公1&lt;競技会&gt;

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校・競技者数	備考
1	2021日本学生陸上競技個人選手権大会	2021年 6月4日(金) 6日(日)	レモカスタジアム平塚 *ハンマー投げ/相模原ギョ フィールド	男子18 女子18	97校…655名 99校…682名	大会新(7)大会々(1) 林一ツ振興基金助成金事業
2	(2021オールスターナイト陸上) 秩父宮賜杯 第61回実業団・学生対抗陸上競技大会	2021年 7月17日(土)	平塚市 レモカスタジアム平塚	男子10 女子10	54名 54名 (オープン参加は含 まず)	実業団235.5点男子117.5点女子118点 学生163.5点 男子82.5点女子81点 総合優勝チーム: 秩父宮賜杯、 内閣総理大臣杯 男子優勝チーム: 文部科学大臣杯 女子優勝チーム: 厚生労働大臣杯 日本最高(1)女子トレーラー 大会新(2)
3	天皇賜盃 第90回日本学生陸上競技対校選手権大会	2021年 9月17日(金) ~19日(日)	熊谷林一ツ文化公園陸上 競技場	男子22 女子22	135校…1380名 116校…925名	男子優勝校 順天堂大学(86点) 女子優勝校 日本体育大学(93点) 日本学生新(3) 大会新(5)
4	第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走	2021年 10月10日(日)	出雲市 45.1km 6区間		国内…20チーム	優勝 東京国際大 2時間12分10秒 2位 青山学院大 2時間14分07秒 ※優勝チームには内閣総理大臣杯、 文部科学大臣賞を授与
5	第39回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会	2021年 10月31日(日)	仙台市 38.0km 6区間		国内・25校+1チーム (東北選抜)	優勝: 名城大2時間02分59秒(5年連続6回 目) 2位 大東文化大 2時間05分35秒 ※優勝チーム: 文部科学大臣杯を授与
6	秩父宮賜杯 第53回全日本大学駅伝対校選手権大会	2021年 11月7日(日)	名古屋市~伊勢市 106.8km 8区間		国内・25校+2チーム (東海選抜/全日 本大学選抜)	優勝 駒沢大 5時間12分58秒 (2年連続14回目の優勝) 2位 青山学院大 5時間13分06秒
7	2021全日本大学女子選抜駅伝競走	2021年 12月30日(木)	富士市・富士宮市 43.4km 7区間		国内…22単独チ ーム+全日本大学選 抜+静岡県選抜) 計24チーム	優勝 名城大 2時間22分24秒 2位 大東文化大 2時間25分22秒 ※優勝チーム: 文部科学大臣杯を授与
8	第25回日本学生ハーフマラソン選手権大会 兼ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 日本代表選手選考競技会	2022年 3月13日(日)	立川市			優勝: 平林清登(国学院大)1.01.50 2位: 中西 大翔(国学院大)1.02.02 3位: 松山 和希(東洋大)1.02.02
9	第16回日本学生20km競歩選手権大会 兼ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 日本代表選手選考競技会	2022年 3月20日(日)	能美市			男子優勝 古賀 友太(明治大)1時間20分40秒 女子優勝 内藤未唯(神奈川大)1時間35分51秒
10	第25回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会 兼ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 日本代表選手選考競技会	2022年 3月20日(日)	松江市		中止	新型コロナウイルス感染症の影響により 中止
11	2021年日本学生記録年鑑の発行	2022年 3月31日発行			1000部発行	主催競技会の記録、2021年50傑、歴代10傑他

## (2) 公2&lt;育成&gt;

No.	競技会等	期日	場所	備考
1	秩父宮賜杯 第74回西日本学生陸上競技対校選手権大会	2021年 6月18日(金) ~20日(日)	岐阜メモリアルセンター長良川競 技場	コロナ感染症の影響により中止
	第43回北日本学生陸上競技対校選手権大会	2021年 7月3日(土) ~4日(日)	新潟市陸上競技場	日本学連が共催。 競技者育成を目的とし、補助金支給
2	日本学連栄章贈与式/諸記録章 (日本学生新記録)	2021年 12月4日(土)	東京/新宿	【日本新記録章】 泉谷 駿介(順天堂大110mH)、三浦龍司(順天堂大3000mSC) 【日本学生新記録章】 (男子)イエゴン ヴィンセント(東京国際大5000m)、 幸長慎一(四国大円盤投)、伊藤陸(近畿大工高専三段跳)、 ワンジクチャールズ カマウ(武蔵野学院大10000m)、 (女子)小林成美(名城大10000m)、道下美槻(立教大1500m)、 福岡大(4×100mR伊藤、兒玉、渡邊、城戸) 吉村怜美(大東文化大10000m)

3	2022クロカン日本選手権（日本学連共催）	2022年 2月23日（土）	福岡市/海の中道海浜公園男子12km, 女子8km	男子最高：浦野 雄平（國學院大）学生1位 連合杯獲得 ※ 29分18秒（日本選手権1位） 女子最高：和田 有菜（名城大）学生1位 連合杯獲得 ※26分58秒（日本選手権2位）
4	第67回指導者会議	2022年 3月5日（土）	Web会議システム	Web会議システムにより実施。テーマは「指導者や競技者等のコンプライアンスについて考える」
5	東京マラソン2022 選手推薦	2022年 3月6日（日）	東京	新型コロナウイルス感染症の影響によりエリート選手のみ推薦。
6	新規B級審判員資格認定		各地	講習会は地区学連が開催
7	ドーピング・コントロール・テスト	4回	各地	検査実施大会（日本学生個人, 日本IC、実・学生対抗陸上, 全日本大学女子駅伝）
8	知っておきたい アンチ・ドーピングの知識2021発行	2021年1月1日	日本学連ホームページに公開	日本学連医事委員会編集

(3) 公3 <調査研究>

No.	事業	期日・回数	場所	備考
1	2021年度日本陸上競技学会共催	2022年 2月23日（水）	岩手大学	第20回大会
2	研究調査『陸上競技研究』の発行	年4回/125～128号		(ISSN 0919-9918) 日本学連調査研究委員会 2021/6/30、9/30 12/31、 2022/3/31発行 ※林一ツ振興くじ助成金事業

(4) 法人管理部門<組織力管理>

No.	事業	期間・回数等	摘要
1	理事会の開催	4回	第48回（5月15日） 第49回（9月16日） 第50回（12月4日） 第51回（3月5日）
2	定時社員総会の開催	1回	第13回定時社員総会（6月12日）、
3	会員の入会受付	2021年度	名誉会員 40名 正会員 135名 普通会員（学生） 18,568名
4	公認競技会開催申請及び記録公認申請	2021年度	日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付/日本陸連申請 日本学連傘下の団体の記録公認受付/日本陸連申請
5	会報の刊行	3回	各回 1,000部（名誉会員、正会員、役員、委員会委員 賛助会員 地区学連加盟校に配布） 5月、10月、1月
6	ホームページの運営・公開	随時	事業計画、事業報告、計算書類等の公開、競技会等に関する情報提供、等
7	2021学生役員会議	2021年 12月4日（土）	1回開催（東京） 参加対象：各地区学連幹部学生役員
8	第47回学生幹部役員研修会	2022年 3月4日（金）	オンラインシステムにて開催。参加対象：令和4年度各地区学連三役
9	学連情報の掲載	毎月	『月刊陸上競技』に掲載（各地区ヘッドコーチ、地区選出理事、専門委員長などが執筆）